

火山性地震及び火山性微動は少ない状態で経過している。

国土地理院の GPS 連続観測では、始良カルデラ（鹿児島湾奥部）の地下深部へのマグマ注入による膨張が続いている。

薩摩硫黄島 (30°47'35"N, 130°18'19"E (硫黄岳))

硫黄岳山頂火口の噴煙活動は依然としてやや活発な状態が続いており、噴煙高度は火口縁上概ね 200m で推移した。4 月 27 日に第十管区海上保安本部が実施した上空からの観測では、硫黄岳山頂火口から、断続的に白色の噴煙が上がっているのが確認された。

火山性地震はやや多い状態が続いている。発生した地震の多くが B 型地震で、A 型地震も時々発生した。また、火山性微動も時々観測された。

口永良部島 (30°26'36"N, 130°13'02"E (古岳))

GPS 連続観測では、2008 年 9 月以降、新岳火口浅部の膨張を示す変化が観測されていたが、2009 年 2 月以降は鈍化している。3 月 23 日に行った現地調査では、2009 年 1 月以降、新岳山頂火口南側の熱異常域の分布に特段の変化はなかった。3 月 25 日に実施した、COMPUSS を用いたトラバース法による火山ガス観測では、一日あたりの二酸化硫黄の平均放出量は概ね 100 トンと、2009 年 1 月以降やや減少していた。

火山性地震及び火山性微動は、少ない状態で推移した。

遠望カメラ（新岳火口の北西約 3 km）による観測では、新岳火口から火口縁上概ね 100 m の噴煙が時々確認され、4 月 19 日には、火口縁上 400 m に達するなど、噴煙活動はやや高まった状態が続いている。4 月 27 日に第十管区海上保安本部が実施した上空からの観測でも、新岳火口から白色の噴煙が断続的に上がっているのが確認された。

諏訪之瀬島 (29°38'18"N, 129°42'50"E (御岳))

爆発的噴火が時々発生したほか、小規模な噴火も時々発生した。地震活動は、B 型地震がやや多い状態で推移した。

(お知らせ) 最新の火山活動解説資料は気象庁ホームページの以下のアドレスに掲載しています。

URL http://www.seisvol.kishou.go.jp/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.htm

(文責：気象庁地震火山部火山課 道端秀和)

○教員公募

【茨城大学理学部】

1. 職名・人数：助教（任期なし）・1 名
2. 所 属：理学部理学科地球環境科学領域
3. 応募資格：
 - (1) 理学部におけるフィールドワークを含む岩石学分野の講義・実験・実習等を担当でき、JABEE（日本技術者教育認定機構）認定プログラムにおいても、高度な専門的能力を有する人材の育成を分担できる方。
 - (2) 博士の学位を有し、大学院理工学研究科博士前期課程において講義を担当できる方。
 - (3) 岩石学・鉱物学に用いる（機器分析センター設置の機器を含む）分析機器や実験室を利用し、その管理、保守を分担できる方。
4. 採用予定日：平成 21 年 11 月 1 日
5. 応募締切：平成 21 年 6 月 30 日（火）必着
6. 提出書類：
 - (1) 履歴書（市販のもので可。写真貼付）
 - (2) 研究業績目録（以下のように区分して記載）
 - A. 査読付きの論文（総説を含む）
 - B. 査読のない論文（総説を含む）
 - C. 著書
 - D. 報告書その他の出版物で特に参考になるもの
 - (3) 主な論文の別刷または著書 5 編以内（複写可）とその内容の簡単な解説
 - (4) これまでの研究経過と教育活動（主な野外調査経験、国外・国内の共同研究への参加状況、国際・国内学会での主な講演、受賞、現在までに取得した競争的資金、教育経験など、特記すべき事柄を含めてください。A4 用紙 2 枚程度）
 - (5) 教育への抱負（A4 用紙 1 枚程度）
 - (6) 今後の研究計画（A4 用紙 1 枚程度）
 - (7) 応募者について参考意見をいただける方（2 名）の氏名および連絡先（所属、住所、連絡先、E-mail）封筒の表に「助教応募書類在中」と朱書し、書留にて郵送してください。なお、応募書類は希望されない限り返却いたしませんので、返却を希望される方は、宛名を書いた返信用封筒（切手貼付）を同封してください。
7. 書類送付先および問い合わせ先：
 〒310-8512 水戸市文京 2-1-1
 茨城大学理学部教員選考委員会（地球環境科学領域）
 委員長 安藤寿男 TEL：029-228-8391
 e-mail：ando@mx.ibaraki.ac.jp
8. 参考：
 当学科、領域の概要、メンバー等は、下記ホーム

ページを参照してください。

<http://www.sci.ibaraki.ac.jp/>

<http://www.sci.ibaraki.ac.jp/01aboutsci/course/chikyuh.html>

9. その他：

機器分析センターには、岩石学・鉱物学用の分析機器として現在、XRF, ICP, SEM/EDS, XRD 等があります。書類審査による第一次選考の後、第二次選考として、研究に関する講演をしていただき、領域メンバーによる教育・研究に関する面接を行います。なお、講演並びに面接への旅費等は個人負担にてお願いいたします。

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに4月23日送信しました)

○教員公募

【北海道大学大学院理学研究院附属地震火山研究観測センター】

1. 職種・人数：助教・1名
2. 専門分野：地震予知を目指し、陸上における地震観測を精力的に進め、観測された地震波形解析による地震発生場や発生過程解明に関する先端的研究を実施する。「地震及び火山噴火予知のための観測研究計画の推進について(建議)」(平成20年7月17日)に基づき北海道大学が実施する国内外の地震観測研究および大地震時の臨時観測研究を主体的に推進できること。理学院自然史科学専攻および理学部地球科学科の教育を担当する。
3. 着任予定時期：決定後できるだけ早い時期。
4. 学 位：採用時に博士またはそれに相当する学位を有すること。
5. 応募書類：以下の応募書類を「助教応募書類」と朱書した封筒に入れ、書留にて郵送すること。応募書類は返却しない。
 - (1) 履歴書(国内外の学会活動、受賞歴、プロジェクト研究参加歴、各種研究費の受領歴、非常勤講師等の教育の経歴、社会貢献などを含む)
 - (2) これまでの研究経過(A4用紙2枚程度)
 - (3) 研究業績目録(以下のように区分して記載)
 - A. 査読のある論文および総説
 - B. 査読のない論文および総説
 - C. 著書
 - D. 解説・報告書など、その他の出版物で特に参考になるもの
 - (4) 主な論文の別刷りまたは著書5編以内(複写可)
 - (5) 今後の研究計画と教育の抱負(A4用紙2枚程度)

6. 選考審査：書類審査の上、面接を行うことがある。

7. 応募締切：平成21年6月30日必着。

8. 書類の送付先および問合せ先：

〒060-0810 北海道札幌市北10条西8丁目

北海道大学大学院理学研究院附属

地震火山研究観測センター 村上 亮

011-706-2643 (代表 Tel), 011-746-7404 (代表 Fax)

e-mail : mcopy_mm@mail.sci.hokudai.ac.jp

9. 参考：当センターの概要、メンバー、予知研究計画課題は、下記ホームページ参照のこと。

<http://www.sci.hokudai.ac.jp/grp/isv/isv-web/>

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに5月12日送信しました)

○教員公募

【東京工業大学】

1. 募集人員 地球惑星科学専攻専任助教1名(任期5年, 再任1回3年)
専門分野：地球惑星物質科学
 - (1) 理論・実験鉱物科学, 宇宙地球化学, 岩石学などについて教育研究を行う方
 - (2) 自分の専門分野だけでなく本専攻の他分野にも広く関心を持ち, 他研究室との共同研究に積極的に取り組む方
 - (3) 大学院・学部の教育研究を通して次世代研究者育成に意欲的に取り組む方
2. 応募資格：博士の学位を有する方
3. 着任時期：採用決定後、できるだけ早い時期を希望します。
4. 提出書類
 - (1) 履歴書(市販のもので可)
 - (2) これまでの研究・教育の実績(1,200字程度)
 - (3) 今後の研究・教育の計画・抱負(1,200字程度)
 - (4) 研究業績リスト
 - A. 査読付き原著論文
 - B. プロシーディングス, 総説など
 - C. 著書, その他特記すべき出版物

(注) A, B, C いずれも和文のものは和文名で表記すること。
- (5) 主な原著論文の別刷(コピー可)3編以内
- (6) 応募者について参考意見をうかがえる方(2名)の氏名および連絡先(所属, 住所, e-mail)
- (7) 応募書類は返却いたしません。こちらで責任を持って処分させていただきます。
5. 応募締切：2009年7月17日(金)必着
「宅配便」にて送付願います。

6. 応募書類の送付先
〒152-8551 東京都目黒区大岡山 2-12-1 I2-20
東京工業大学 大学院理工学研究科
地球惑星科学専攻 209号室気付 井田 茂
Tel : 03-5734-2339
7. 問い合わせ先 井田 茂
e-mail : ida@geo.titech.ac.jp
Tel : 03-5734-2620
8. 本専攻教員等については下記ホームページをご覧ください。
<http://www.geo.titech.ac.jp>
(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに6月9日送信しました)

○技術職員公募

【東京大学地震研究所】

- 募集職種：技術職員（観測系，機器開発系それぞれ1名）
- 勤務場所：東京都文京区弥生 1-1-1
- 職務内容：
 - (A) 観測系：1) 地震観測などを主とする地球物理観測。 2) 取得した観測データの基本的な処理および解析。 3) 観測器機等の管理。
 - (B) 機器開発系：1) 地震・火山観測に用いられる計測器機の開発・改良の技術支援（電気回路設計や装置の試作等）。 2) 実験装置および測定器の維持管理。電気回路部品の管理。
- 応募資格：4年制大学理工系学部あるいは高専卒業以上で、それぞれ、(A) 地震や火山噴火現象の解明に熱意をもち、観測やデータ解析技術の向上に意欲があり、観測・計測あるいは計測機器開発に関連する職務経験が2年以上。(B) 地球科学に関心を持ち、新しい装置を開発する意欲があり、電気回路設計および試作の職務経験が2年程度以上。ただし、大学院等における研究歴は職務経験と見なします。
- 応募期限：平成21年7月6日（月）正午 必着
- 採用予定時期：平成21年10月1日
- 応募書類（書式自由）：
 - 履歴書
 - 小論文（本公募に応募した理由2,000字以内）
 - 職務経歴書（経歴ごとに企業や大学院等の職務・研究内容を具体的に記述）
- 書類提出先：〒113-0032 東京都文京区弥生 1-1-1
東京大学地震研究所庶務チーム（人事）
電話：03-5841-5668 e-mail : jinji@eri.u-tokyo.ac.jp
応募書類は封筒に「技術職員（観測）応募」あるいは

- は「技術職員（開発）応募」と朱書き，書類提出先まで送付下さい。なお，面接時間帯として，1次面接：7月11日（土）午前（前半・後半），午後（前半・後半），及び2次面接：7月18日（土）午前（前半・後半），午後（前半・後半），それぞれの希望時間帯を記述してください。都合がつかない場合は，お問い合わせください。
- 選考方法等：小論文及び職務経歴書等にもとづく書類選考，及び面接選考により決定します。
 - 勤務条件等：東京大学 HP「職員採用情報」の「勤務条件・給与」をご参照ください。
 - 問い合わせ先：東京大学地震研究所教授 佐藤比呂志
電話：03-5841-5737 e-mail : satow@eri.u-tokyo.ac.jp
なお本公募の詳細は以下をご覧ください。
<http://www.eri.u-tokyo.ac.jp>
(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに6月2日送信しました)

○乗船者募集

【日本地球掘削科学コンソーシアム】

- 今年の9/4～11/4にかけて新しく改装された科学掘削船 Joydes Resolution によって Shatsky Rise を掘削する研究航海が行われます。このたび、1名の乗船者を追加募集することとなりました。希望者は、日本地球掘削科学コンソーシアム (J-DESC) 事務局 梅津慶太 (umetsu@aesto.or.jp) までお問い合わせください。
- <掘削対象>
Shatsky Rise の基盤岩類（溶岩流が主体）
- <掘削研究航海>
9/4～11/4
- <募集分野（1名）>
Structural Geologist (igneous rocks) and/or Physical Properties Specialist
- <募集〆切>
5/10（但し、適任者の応募があり次第〆切）
(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに4月22日送信しました)

○ホルヨ国際火山会議

- メキシコ，ミチョアカン州モレリア市で9月27日から10月4日の日程でホルヨ国際火山会議が開催されます。ホルヨ火山誕生250周年記念の会議です。全体で350名の参加を予定しています。以下に2nd circular が掲載されています
<http://www.geofisica.unam.mx/vulcanologia/jorullo/>
講演申込・早期登録の締切は6月15日です。

日本学術会議地球惑星科学委員会

IAVCEI 小委員会委員長 中田節也

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに、4月22日及び5月28日送信しました)

○火山防災委員会の開催について

日本地球惑星科学連合 2009 年大会期間中に、火山防災委員会を以下のように開催いたします。

日本火山学会 火山防災委員会

世話人：荒牧重雄・中村洋一・藤田英輔

日時：5月18日(月) 17:30-20:00

会場：幕張メッセ 国際会議場 3F 301A 号室

プログラム：

1. 活火山地域の火山リスク評価の手法について
全国を対象とした火山噴火災害危険度評価に関する研究
吉村昌宏(損害保険料率算出機構)・鈴木雄介(アジア航測)
火山災害リスク評価地図システムの紹介
建設業における火山防災に関する取り組みの一例
西 琢郎(清水建設)
2. 国土交通省の火山噴火緊急減災対策計画について(仮題)
佐藤一幸(国交省砂防計画課)
3. 火山防災委員会の今後の活動
荒牧重雄・中村洋一・藤田英輔(敬称略)
「火山防災委員会」は、委員会と呼んでいますが委員のみの会合ではなく、日本火山学会の会員に限らず、どなたでも自由に会議に出席し、討論に参加いただけます。

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに5月12日送信しました)

○火山噴火の確率的予測 WG 第2回勉強会

ベスピオ火山で用いられた確率的災害評価プログラム(BET)の開発者である Dr Marzocchi 氏(INGV, Italy)が来日されます。この機会を利用し、火山噴火の確率的予測の勉強会を開催しますので、興味ある方はご参加下さい。

日時：5月26日(火) 14時~16時

場所：東大地震研究所会議室(1号館)

収容人員 50名ほど

講師：Warner Marzocchi 氏(INGV—Istituto Nazionale di Geofisica e Vulcanologia, ITALY)

内容：BET (Bayesian Event Tree) : a probabilistic method for eruption forecasting and hazard assessment, and

its use in decision-making.

最初に藤田英輔氏(防災科研)と Alexander Garcia 氏(INGV)による簡単な内容説明

<参考 Website>

<http://www.bo.ingv.it/bet/>

<http://www.roma1.ingv.it/Members/marzocchi>

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに5月15日送信しました)

○日本地下水学会 50周年記念講演会

【日本地下水学会】

50周年記念講演会：5/29(金) 14:00~

場所：日本科学未来館みらい CAN ホール

祝賀パーティー：同日 18:00~

場所：有明ワシントンホテル

詳しくは下記 URL をご覧ください。

http://homepage2.nifty.com/jagh_gyouji/

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに5月15日送信しました)

○ワークショップ案内

【独立行政法人産業技術総合研究所】

計量書誌学は論文の価値を評価する一つの方法として知られています。産業技術総合研究所評価部では、今後の評価システム構築の参考とするために、最近の計量書誌学の動向について、当分野において著名な方にご講演いただく機会を設定しました。また、(独)物質・材料研究機構ならびに地質調査情報センター提供によるデジタルアーカイブに関する企画展示、エルゼビア・ジャパン(株)ならびにトムソン・ロイター(株)提供による科学論文データベースを用いた調査・分析のトライアルを実施いたします。

記

開催日：平成21年6月1日 10時20分~16時40分

場 所：産業技術総合研究所 つくばセンター

共用講堂

参加料：無料(事前の申し込みが必要です)

詳細、講演概要、申し込み手続：

<http://unit.aist.go.jp/eval/ci/workshop2009.html>

問い合わせ先：産業技術総合研究所 評価部

ワークショップ事務局(七山または岡)

〒305-8568 茨城県つくば市梅園 1-1-1

中央第2

電話：029-862-6096/

メール：eval-ws2009@m.aist.go.jp

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに5月21

日送信しました)

○JpGU 地球人間圏科学セクション

地球惑星科学連合「地球人間圏科学セクション」個人登録のお願い

地球人間圏科学セクション・サイエンスボード一同

岡部篤行, 安成哲三, 碓井照子, 安仁屋政武, 岡本耕平, 奥村晃史, 小野有五, 佐竹健治, 春山成子, 水見山幸夫, 松本 淳, 矢ヶ崎典隆, 若土正暁

この度、地球惑星科学連合が社団法人化され、個人会員の登録が始まりました。個人会員は、5つのセクション(宇宙惑星科学, 大気海洋・環境科学, 地球人間圏科学, 固体地球科学, 地球生命科学)から1つを選択して登録することになります。連合の社員総会のメンバーとなる代議員は、代議員選挙公示日(2009年8月3日)の登録区分の人数に比例して割り当てられますので、当セクションを登録区分として選ぶ人数が多いほど、連合の意思決定に参加しやすくなります。登録セクションは、連合のウェブサイト(個人情報登録ページ)で変更できます。

<https://secure.jtbcom.co.jp/earthreg/submit/member/changeinfocheck.asp>

地球人間圏科学セクションは、地球惑星科学の中でもこれから発展する新しい分野で、以下のような研究の推進を目的としております。皆様のご研究分野を、新たにできた大きなコミュニティにおいてより広く発展させる良い機会ですので、是非、地球人間圏科学セクションを登録区分としていただき、ご活躍いただくようお願いいたします。

地球人間圏科学の主な研究対象は、地球表面すなわち陸域と海域における自然の活動と人間の活動(経済, 社

会, 文化活動など)とが相互に関連して織りなす諸現象です。研究内容は、そのような現象の調査, 観測, 測定, 記述(地図化), データ蓄積・管理, 分析, モデル構築, 予測, 計画・政策策定, 伝達・視覚化などです。その大きな特徴は、自然科学, 工学, 農学, 人文・社会科学の視点を複眼的にもつところにあります。

主に自然活動の面から地球人間圏科学に携わる場合は、人間活動の場としての自然の成り立ちと、自然が人間に与える影響などを研究対象とします。従来の地球惑星科学・環境科学の幅広い分野がこれに関わりますが、なかでも自然地理学, 地形学, 地質学, 地震学, 火山学, 応用地質学, 第四紀学, 気候学, 海洋学, 陸水学, 水文学, 雪氷学, 土壌学などが深く関わります。

一方、主に人間活動の面から地球人間圏科学に携わる場合は、人間・社会の自然環境およびその変化への対応と、人間・社会が自然を改変したために生じる地球システム全体への影響などを研究対象とします。これらの解明には、人文科学・社会科学と強く結びついた人文地理学や農学・工学等に関連する分野、更には人類学, 考古学などが深く関わります。

現代の社会問題には、大規模災害問題, 環境問題, 土地資源問題などに見られるように、地区・地域の問題が地球全体に影響を及ぼす問題が数多くあります。地球人間圏科学は、これらの問題の解決に資する研究貢献が社会から大きく期待されている分野でもあります。

是非、皆様の研究をより広く発展させるため、地球人間圏科学セクションに登録され、ご活躍いただくよう、お願い申し上げます。

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに5月26日送信しました)